

Kukuna だより (第7号)

ぎょうじ きせつ むか
行事の季節を迎えて

～「参加するか・しないか」の二者択一にとらわれない寄り添い～



まち きぎ いろ はじ こち あきかぜ ふ きせつ
街の木々も色づき始め、心地よい秋風が吹く季節となりました。学校では運動会や文化祭、音楽会など、大きな行事に向けた準備が進む時期です。

かっき いっぱう きせつ こ
活気にあふれる一方で、この季節は子どもたちにとって「みんなと同じにできるだろうか」「練習の雰囲気がしんどい」といったプレッシャーや葛藤を抱えやすい時期でもあります。

ぎょうじ さんか きかい ねが まわ おとな しぜん
「行事だけは参加してほしい」「せっかくの機会だから……」と願うのは、周りの大人の自然な気持ちです。しかし、心がエネルギーを必要としているとき、大きな行事はとても高いハードルに感じられることがあります。行事の季節を子どもたちが自分らしく乗り切るための関わり方について考えてみたいと思います。

さんか ふさんか あいだ たいせつ
1. 「参加」と「不参加」の間のグラデーションを大切に

ぎょうじ かか かた さいしょ さいご さんか かんぜん やす ふた
行事への関わり方は、「最初から最後まで参加するか」、「完全に休む」かの二つだけではありません。

けんがく じゅんび かたづ てつだ さくひん てんじ さんか
○見学だけしてみる ○準備や片付けだけ手伝う ○作品の展示だけ参加する

ひと すく じかんたい み い
○人の少ない時間帯に見に行く

など、たくさんの選択肢があります。「ここまでならできそう」という本人の小さな安心感を大切に、柔軟な参加の形を一緒に探していきましょう。

やす ゆうき
2. エネルギーがたまらないときは「しっかり休む」勇気を

もしも行事に向き合うことが難しそうなら、それは「今は心のエネルギーをじっくり蓄える時間」というサインかもしれません。無理をして参加し、エネルギーを使い果たしてしまうよりも、安心して休める環境で「心の根っこ」をやすませてあげることが、次のステップへとつながります。

い せ なや じたい
「行けなかったこと」を責めず、「悩んだこと自体がその子の精一杯のがんばり」として受けとめたいものです。



3. 行事前後の連絡や「声かけ」も「チーム」で

行事の前後は、出欠確認や練習の進み具合など、家庭と学校との間で連絡が多くなります。

「毎朝の連絡がプレッシャーになっていないか」「どんな伝え方なら不安が少ないか」など、気になることがあれば、些細なことでも共有するようにしましょう。お互いに無理のない連絡方法を工夫していくことも、子どもを守る安心感につながります。



4. 行事が終わったあとの「ほっとひと息」を大切に



行事本番が終わると、大人も子どもも肩の荷が下りるものですが、緊張の糸が切れたあとに心や体の疲れがどっとあふれ出ることもあります。参加できた子ども見送った子ども、この時期を乗り切るために見えないエネルギーをたくさん使ってきています。行事の後は「よく乗り切ったね」とあたたかいお茶を飲むような気持ちで、ゆったりと心身を休める時間を意識してとれるようにしましょう。

「行ってみる」「今回はやめておく」「途中までする」どんな結論であっても、子ども自身が葛藤の末に決めた選択は、大切な「自分の気持ちを伝える力」の表れです。「自分で決められたね」「気持ちをおしえてくれてありがとう」と受けとめてもらえる経験こそが、子どもの自己肯定感と、次の一歩を踏み出す自信へと育っていきます。

学校生活では、行事などの大きなイベントが目立ちがちですが、本当に大切なのは「日々の何気ない暮らし」です。朝起きられたこと、ご飯を食べられたこと、好きなことに夢中になれたこと。行事の成否にかかわらず、そうした日常の中の小さな営み一つ一つが、子どもたちの確かな成長の根っこになっています。特別な日だけにとらわれず、日々の「今日も元気でいてくれてありがとう」を大切に重ねていきましょう。

施設見学や教育相談を

受付けています。

※前日までに予約してください。

電話 079-661-9019

ククナの10月の予定

10月27日(火) スタッフ会議

※27日は14時30分までに迎えをお願いします